

## 書くこと、話すこと

澤口 たまみ

文章の書き方を教えるようになって、十年近くが経とうとしている。

この文章講座のほかにも少しずつ機会が増えて、今では文章を教えることが、私の仕事のなかで大きな比重を占めつつある。受講生のほとんどは、自らの意志で、進んで習いに来てくださった方々だ。が、なかには本人が望んでいないにも関わらず、私から文章を習う羽目になった若者たちもいる。

彼らは、これまでの人生で何かしらの屈折を抱えてきている。その屈折は、本人ではどうすることもできない環境に起因しているケースが多いようだ。それでも本人に、もう少し自分の気持ちを整理する力や、それを他者に伝えるコミュニケーション能力があれば、より小さな屈折で済んだのではないか、という可能性は否定できない。

実際、彼らの多くが、「自分の気持ちを素直に口にするのが苦手だ」と言う。文章を書くことを練習するに当たっては、「何を書いたらいいかわからない」と言う少年も多かった。私はそういう彼らに、「文章は、今の自分の気持ちを紙の上に、ありのままに吐き出す、

ただそれだけの作業だ」と言った。

「かっこいい文章を書こうとか、人に褒められる文章を書こうとか……それは褒められたら、きっととても嬉しいだろうけれども……でも本当に大事なことは、そういう表面的なことではないんだ。だから書くことがないのなら、『書くことがない』と書けばいい」と。

はじめは戸惑っていた若者たちだが、「自分の気持ちをそのまま書けばいい」と聞いたとたん、堰を切ったように言葉があふれ出した少年がいた。どうしても文章の形にはできず、自分の気持ちを箇条書きのように表した少年もいた。

話すのが苦手だという彼らだからこそ、書くことを身につけると大きな力になる。心の中のものもやまとした気持ちを、言葉にして紙に書く練習をしていたら、話すときだつて、きちんと人に伝わる言葉を選べるようになるはずだ。

書くことの原点は、案外そんなところにあるような気がしている。